

私がキャリアコンサルタントを生業にするようになって今年で18年目になる。特に大切に継続して行っているのが、若者の就業支援である。個別相談やグループカウンセリング、就活に役立つセミナーなどを行っている。

学生から社会人になる初めての就活や、就職先が決まらないまま卒業し働きたいけどどうしたらいいかわからない、就職したけど転職したいなど、若者という括りだが、就活に関する悩みはさまざまである。

若者の就職支援で心がけていることは、社会的自立を促すキャリアコンサルタントとしての伴走である。就労は社会・経済の変化に大きく影響され、ここ数年はコロナにより求人や就職活動において変化がみられ、これまで通りとはいかないところがある。刻々と変

ナビゲーター

産業カウンセラーの現場から

相談者の思いに共感して伴走する

就労に関する悩みはさまざま

化する社会環境に対応できるよう、就活を通して相談者の成長につながる支援を個々の相談者の特性に合わせて実施するようにしている。

また、相談に来られる若者は概ね35歳以下で私とはかなりの年齢差があり、育った時代が違うため、考え方や価値観が異なる。「そんなふうには捉えるんだ」と驚くこともあるが、常に考えや気持ちに寄り添うように心がけている。

先日、以前担当していた相談者の方が、私が不在の日に訪ねて来られた。最後にお話しをお伺いしてから1年ぐら経っているかもしれない。ちょっと気になっていた相談者だ

若者のキャリアの伴走者

った。大学卒業時に就職が決まらず、卒業後2年ほど家におり、初回来談はご家族同伴だった。これからのキャリアについて、他人事のように話していたが、でも本音のところは違うように感じた。

その後、2週間に1回のペースで来談された。就活の話にこだわらず、話したいことを話してもらう時間にした。少しずつ自己開示をし、2カ月ほど経ってファッション関係の仕事に少し興味があると話し出した。私は自己理解が深まるようにお話を伺いつつ、「調べてみたい企業があればみてはどうですか」と聞いたところ「一度調べてみる」と帰っていった。それ以来である。

名刺には「近くに来たので立ち寄りました」とメモが書かれ、名刺の会社名はファッション業界だった。少し時間がかかったかもしれないが、自分で考え、納得できる職業選択ができたこの経験は、ご本人にとってこれからのキャリアを歩んでいく上でも必ず役に立つと思うし、心からエールを送りたい。

数年前にフランス公立工芸院ジャン・ギシヤール名誉教授の講演を聞く機会をいただけた。子供、若者へのキャリア支援はこれからの世界の発展にとって、とても重要であると力を込めてお話になっていた。

私は壮大なことはできないが、これからも日本の将来を担う若者に寄り添い、エネルギーもいたしながら、キャリアの伴走者としてできることをやっというと思う。

【キャリアコンサルタント・産業力カウンセラー 岡田早代子】

(火曜日掲載)

